

日本農薬学会誌 Vol. 49, No. 2 (2024)

目 次

学会賞受賞論文要約

農薬開発を目指したリグナン類の合成および構造活性相関に関する研究	山内 聡	45
殺虫剤「アフィドピロペン」の開発	堀越 亮, 後藤公彦, 三富正明, 砂塚敏明, 大村 智	49
昆虫ホルモン様活性化化合物の合成・評価・デザインに関する研究	横井大洋	54
令和6年度論文賞対象論文の概要とその研究背景	東村紀一, 濱田 玲, 櫻井誠也, 伊藤寛之, 小原敏明, 番場伸一	57

解説

持続可能な養殖を目指して—クロマグロ・アイゴ完全養殖—	澤田好史	60
大和を掘る—橿原考古学研究所の調査・研究—	東影 悠	66

読み物シリーズ

〈各地の生産現場から (20)〉

埼玉県のニンニク栽培における病害虫について	宇賀博之, 小巻康平, 福勢かおる, 酒井和彦	72
-----------------------	-------------------------	----

ミニレビュー

〈農薬デザインのイノベーション〉	清田洋正, 山内千明	77
AI創薬のための基礎事項	井上貴央, 結城伸哉	78
ラジカル反応で実現する混雑分子の合成	西形孝司	83
フロー・自動合成, 機械学習技術が駆動する有機合成の革新	布施新一郎	99
〈昆虫フェロモン研究の最前線〉	太田広人	106
ガ類性フェロモン生合成経路とフェロモン分子の多様化	藤井 毅	107
ガ類の高感度・高選択的な性フェロモン受容の分子基盤	櫻井健志	111
昆虫フェロモンの農薬としての利用の現状	田端 純	117
〈生物を知り制御する〉	太田広人, 乾 秀之	121
昆虫行動制御剤 (ベミデタッチ®) の生物作用特性と現場での使用例	加嶋崇之, 森戸 梓, 高安 範	123
アザミウマ忌避剤—プロヒドロジャスモンの実用化と忌避メカニズムの探究—	安部 洋, 富高保弘, 佐藤心郎, 佐藤諒一, 平井優美, 大矢武志, 松浦昌平, 瓦 朋子, 梅村賢司, 腰山雅巳, 櫻井民人	130
植物二次代謝酵素および培養細胞を用いた新たなアプローチによる物質生産・物質探索	野村泰治, 加藤康夫	135
ハマウツボ科寄生雑草の防除にむけて	吉田聡子	140
灰色かび病菌が多様な植物に感染する機構の解析	竹本大吾	145

〈化学合成農薬とは異なる作物保護技術〉	乾 秀之, 森本正則	151
昆虫の細胞内に共生する細菌を利用した農業害虫のコントロールについて	陰山大輔	153
静電場を利用した環境改善技術の開発—空中浮遊生物・有害物の捕捉と雑草抑制技術への適用—	松田克礼, 野々村照雄, 角谷晃司, 瀧川義浩, 草刈眞一, 豊田秀吉	158

ショートレビュー 農業科学とその周辺—最近の話題—

農薬の規制評価における生物濃縮性試験代替法	松島慶太	163
土壌の総合的健康管理：植物，動物，人間の健康およびワンヘルスの基礎として	村本穰司	167

シンポジア

2023 IS-MPMI Congressに参加して—農業生産における課題解決の新たな方法—	草島美幸	171
2023 IS-MPMI Congressに参加して—細胞外小胞に関する研究の動向について—	藤田萌香	174
23rd International Symposium on Fluorine Chemistryに参加して	住井裕司	177